

第24回体の動きを高める運動領域部会記録

参加者 河野 古川 畠中 岡田 藤原 山本 森田 大川 藤井 東 土屋 小木曾

常任理事 荻原先生 黒澤先生 高草木先生 西川先生

1 部長挨拶(河野)

- ・研究報告の内容(プレゼン)を中心に話し合っていきたい。以前 PDF で送った研究報告資料に沿って、発表することになっている。手元にその資料を置きながら、話し合いに参加してほしい。
- ・検証授業3本については、大川先生の実践報告と古川先生と岡田先生の実践最終確認を行う。
- ・最後、時間があれば他領域から質問を受けている内容への回答を全体で確認する。
- ・研究報告会の発表者は、部長が行うきまりであれば私が行う。部長以外でもよければ、藤原先生にやってもらう。

2 研究報告のプレゼン(畠中)

- ・動画がカクついていたので、本番では参加者のビデオオフやミュート設定が必要かもしれない。
- ・問いの分類表の情報量が多く、読みたくなる。しかし、読む時間はないため、カットすることも選択肢。
- ・運動プロモーションムービーは、児童が見ているところを撮ったものを流していて、やや画質が悪い。実際の動画ファイルをそのまま貼り付けてよいのではないか。
- ・言葉を揃えたい。スライド6枚目、「一斉一律からの脱却」を「一斉一律の課題解決的な学習から脱却するために」に直し、調研部から出されている文言通りに改める。
- ・原稿上の「運動プロモーションムービー」を「運動をまとめたプロモーションムービー」に改める。
- ・ロードマップの学習課題の並びが、順序性があるように見える。1つ1つの学習課題を横に伸ばして縦に3つ並べ、並列のように配置する。

3 検証授業実践報告(大川)

ビフォーアフター動画 動画視聴後に多様 習課題設定 もとの動きをおさえる 長なわのみ 短冊に問い

報告

- ・ビフォーアフターの映像を基にめあてを立てた。児童は「できるまでにどのようなことをしたのか見付けよう」というめあてを設定した。
- ・担任の働きかけとしては、児童がやっていることを全体にアナウンスしていくようなことのみ。
- ・むかえ跳びから取り組んでいる児童が多かった。
- ・なわの回し方が雑で、上手な跳び方が分からない様子であった。
- ・学習課題2を見出している児童が多かった。学習課題1を見出している児童はいなかった。
- ・どのように働きかければ学習課題1に目を向けさせられるのか、アイデアがほしい。
- ・ロードマップをどのように共有していけばよいか考えたい。
- ・長なわ以外に取り組ませる際のきっかけをどうすればよいのか、ご意見がほしい。

検討

- ・ビデオを2本活用し、長なわ以外の巧みや、巧み以外の3要素の運動にも目を向けさせていけばよい。
- ・第2時に問いから課題を見出すことをある程度理解させ、第3時からどうしようかという段階でビデオを見てから、ロードマップを活用していけばよい。それからならば、学習課題1も出てくるのではないか。
- ・学習を進行させていくと同時に学習計画を作成していくイメージで、指導者の固定概念を覆す必要がある。

4 検証授業最終確認(岡田)

動画なし 多様なし 学習課題設定なし もとの動きのおさえなし 運動はボール、なわ、フープ 問いは都度ボードに

・前回の部会を受けて、発問を整理した。運動中は、ずばり「その動きをして、体の動きは高まった？」と聞く。「高まった」「高まっていない」と答えた児童には「なんでそう思うの？」と問い返す。逆に問いを返してきた児童には、問いを認め、ホワイトボードに記入するように促す。

・学習課題設定の場面では、個人→少人数→全体と共有していき、より考えやすい環境とした。

5 検証授業最終確認(古川)

動画は理想の自分.ver 多様なし 学習課題設定 もとの動きをおさえる 運動は悩み中 問いは整理して次時共有

・学習指導案上には、たくさん発問が書いてあるが児童の様子に応じてどの発問をするか決める。

・どんな運動に取り組むのかが前回決めきれなかった。3要素には取り組ませる。

→もともとは、バンブーステップ、ロールマットずもう、ゴムひも or ボール転がして考えていた。

→今回は、用具(手軽なもの)だけ用意して運動は示さない。テコ入れが必要な場合は、都度介入する。

6 今後の予定(河野)

- 2月15日(月)～ 部会休止
- 2月24日(水) リハーサル
- 2月26日(金) 研究報告会
- 3月 1日(月)～ 検証授業実践報告

6 研究アドバイザー・常任理事より

森田先生

学習者中心の学習計画になっているので、指導者側もいろいろと考えを改めていく必要を感じる。検証授業を終えたら、次年度に向けて4つの実践の共通点・差異点などに注目し、それぞれどんな問いが生まれたか、児童の学びの様子はどうかであったのかというような検証をしていくとよい。小木曾先生が、世田谷区の授業で問いやロードマップを生かして素晴らしい授業をしていた。

高草木先生

興味深く話を聞かせてもらった。動画自動編集ソフトがあるようで驚いた。リハーサルと研究報告会よろしくお願いします。

黒澤先生

教師が何をすればよいのか。数年前の体育科教育に「教えない体育」という記事があった。そのようなことに引っ張られ過ぎて教えることをためらってはいけないと思う。何を考えさせて何を教えるか。しかし教えたいのが教師でもある。考え方を根本的に変えないと、学習指導要領が目指しているところまではいつまで経っても実現しないのではないかと思います。

荻原先生

新しくつくり上げている段階。現段階では、それぞれ異なる学習計画でよいと思う。しかし、手段とねらいを混同しないように。「ロードマップをやらなければいけない」ではない。高めるための学習をよりよくするために活用していければ。

西川先生

本校ではF1レーサーという実践を考えている。詳細は割愛。本日もありがとうございました。